

発行所 〒802-8651 北九州市小倉北区紺屋町13-1 (公財)毎日新聞西部社会事業団
 発行人 木村 雄峰
 電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
 E-mail: s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
 郵便振替 01770-2-40213
 URL http://www.mainichi.co.jp/seibu_shakaijigyo/

児童福祉事業は8件を継続

親などによる児童虐待や養育放棄、少年犯罪の低年齢化など、子どもたちを取り巻く環境が厳しさを増す中、未来を担う大事な子どもたちを守り、はぐくむため、今期は例年通り8件の事業を助成・援助した。

田川児童相談所管内児童福祉施設ボウリング大会

福岡県田川児童相談所と筑豊京築地区児童福祉施設長会が、6月23日と本年2月2日の2回に分け、同県飯塚市の麻生塾ボウルで開いた。児童福祉施設から6月の中学・高校生の大会には60人、2月の小学生の部には48人が参加した。

第45回山口県アイリンピック大会

山口県内の児童施設や障害者施設などの入所者が一堂に集うスポーツとレクリエーションゲームの一大イベント。5月12日、山口市の維新百年記念公園・陸上競技場などで開催した。

平成24年度福岡・筑豊地区合同自立体験セミナー

筑豊京築地区児童福祉施設長会が、児童養護施設に在籍する中・高生を対象に職場実習と職場見学を通じて卒業後の社会人としての自覚を促すために実施。7月8日に事前説明会を、夏休み期間中に職場体験や工場見学、講演会などで研修を重ね、9月2日に体験報告

玉入れや綱引きなどで交流した。

門司区母子クリスマス会

北九州市母子寡婦福祉会門司支部が12月9日、小倉北区のボウリング場に区内の母子家庭の母子約55人を招き、ボウリングと食事を楽しんだ。日ごろ触れ合う機会の少ない子どもたちも大喜びだった。

児童福祉施設への新入学・卒業記念祝い品プレゼント

児童養護施設や障害児などの児童福祉施設を対象に、小学校入学と中・高校卒業予定者に記念のお祝い品を贈った。82施設695人のうち、新1年生にはランドセルカリキュックサック、手提げセット、雨具セット、図書カード(4千円分)のいずれかを▽中・高校卒業予定者には目覚まし時計か図書カード(5千円分)を選んでもらい、祝い品としてプレゼントした。



祝い品プレゼントに寄せられた礼状

13年度事業計画案を承認

事業予算は6040万円規模

毎日新聞西部社会事業団(理事長、原敏郎・毎日新聞西部本社代表)は3月21日、北九州市小倉北区の毎日新聞西部本社で2012年第2回通常理事会を開催、13年度事業計画案と収支予算案などを審議し、原案通り可決・承認した。13年度は東日本大震災支援をはじめ、小児がん征圧募金などの指定寄付事業や児童福祉事業、医療福祉事業、歳末事業など、総額約6040万円規模の事業を実施する計画。

後任の評議員2氏と新任理事1氏を選任

公益財団法人に移行して2年目を迎え、5月10日には13年度第1回通常理事会を開催。12年度の事業報告と収支決算案、評議員2氏の辞任に伴う後任候補者の推薦、理事長の交代に伴う新任理事の推薦、定時評議員会開催日程などを審議、各議



同日24日には、理事会の決議に基づいて定時評議員会を開催し、写真1、理事会と同様に12年度の事業報告と収支決算案を審議したほか、辞任に伴う後任評議員の選任と新任理事の選任などの議題を審議し、各議案を原案通り可決・承認した。今回、選任された評議員と理事は次の方々(敬称略)

海外難民救援事業

キャンペーンで「終わらぬ旅」を連載

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞紙面と連動させ1979(昭和54)年から「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタートした海外難民救援事業は、2012年で33周年を迎えた。12年度は2012年4月、大阪本社の記者とカメラマンがパキスタンのスラムで暮らす住民たちの厳しい生活取材し、「終わらぬ旅」と題して、貧困に苦しむ人々の現状を紙面で連載した。

スラムで生活する人たちの窮状を知った読者から多くの浄財が寄せられ、西部社会事業団は東京、大阪両事業団とともに、日本ユニセフ協会や国連UNHCR協会などの国際機関や「シャンティ国際ボランティア会」「ペシャワール会」などのNGOなど21団体に総額930万円を届けた。キャンペーン当初からの救援金の総額は15億7668万8344円に達した。

海外救援金の配分先は次の通り。

日本ユニセフ協会▽国連UNHCR協会▽日本ファイバーリサイクル連帯協議会▽国連世界食糧計画WFP協会▽AMD(AMDA)▽シェア(国際保健協力市民の会)▽ジェン(JEN)▽シャンティ国際ボランティア会▽全国社会福祉協議会▽難民を助ける会(AAR)▽日本国際ボランティアセンター(JVC)▽バーンロムサイ▽ピースウインズ・ジャパン(PWJ)▽緑のサヘル▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽ネパール・ヨードを考える会▽マハムニ母子寮関西連絡所▽マイシャ・ヤハラ基金▽ペシャワール会

合計 21団体 930万円

小児がん征圧事業

西部社会事業団は5団体に100万円を配分

平成8(1996)年から展開している毎日新聞と毎日新聞社会事業団のキャンペーン「生きる——小児がんの子どもたちとともに」と連動した募金。東京、大阪、西部の3事業団に集まった募金は、小児がんや難病などと闘う子どもたちを支援する組織や医療機関などに贈呈した。西部管内では5団体に計100万円を配分したほか、医療福祉事業の一つとして福岡ファミリーハウスに30万円を助成した。東京、大阪と合わせた当年度の配分は全国で21団体、820万円となり、これにより第1次から第17次までの贈呈総額は2億5255万円となった。

小児がん征圧募金の配分団体は次の通り。

がんの子供を守る会(含むスマートムンストーン)▽そらぶちキッズキャンプ▽白血病研究基金を育てる会▽東京臍帯血バンク▽スマイルオブキッズ▽ファミリーハウス▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽難病のこども支援全国ネットワーク▽日本さい帯血バンクネットワーク▽パンダハウスを育てる会▽チャイルド・ケモ・ハウス▽日本クリニックラウン協会▽近畿小児がん研究会▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティア「ここにトマト」▽京都ファミリーハウス▽NPOあいち骨髄バンクを支援する会▽NPO法人にこま九州▽久留米大学病院親の会「木曜会」▽NPO法人こども医療支援わらびの会▽九州がんセンター小児科親の会「大きな木」▽福岡大学病院小児科親の会「みらい」

合計 21団体 820万円

災害被災者救援事業

東日本大震災救援金は前年度に比べ1割弱に

当期は平成23年に発生した東日本大震災の影響が継続したままで推移した。しかし1年が経過し、募金額だけを比べると東日本大震災への支援意識は急激にさぼるように見える。24年度、東日本大震災救援金には205件568万1822円(前年度1326件6820万円余)が寄せられたものの、前年度に比べ募金額で1割弱となった。一方、毎日新聞社と3事業団が取り組んだ毎日希望奨学金には318件619万3065円(前年度158件760万円余)が寄せられ、この募金は前年度とほぼ同額で推移した。

このほか九州北部豪雨災害救援金には3事業団合計で105万9954円の募金があり、8月末で締め切った熊本、福岡、福岡3県の日赤県支部に35万3318円ずつを送金した。しかし、締め切った後も12件16万9000円余りの募金が寄せられたため、今年3月時点で救援金を募っていた福岡県八女市に全額を送った。

また茨城県竜巻被害救援金として1件6万9660円が寄せられ、同県共同募金会に送金した。

障害者福祉事業

継続事業が18件でうち名義のみ後援は3件

助成・援助の事業件数としては最も多く、すべて継続事業。今期は新規事業がなく18件にとどまった。うち名義のみ後援は3件だった。

助成事業＝「声の点字毎日」発行▽第35回毎日サマースクール▽第33回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ▽第23回北九州市障害者水泳大会▽第37回「わたぼうし音楽祭」▽第12回ごろりんハウス交流キャンプ▽第35回直方市障害児者ひまわりキャンプ▽第47回九州地区聾学校体育・文化連盟長崎大会▽第81回全国盲学校弁論大会▽第23回全国ふうせんバレーボール大会▽中間市もちつき大会▽第32回「出発を励ます集い」▽第31回北九州市障害者ボウリング大会▽第17回大濠スペシャル・笑顔ラン▽北九州OPEN(国際車いすテニストーナメント2012北九州)

名義後援事業＝第30回北九州精神障害者家族会連合会総会▽第31回肢体不自由児者の美術展▽第10回オンキョー点字作文コンクール

福祉団体助成は14件

当期は、前年度と同じ14団体に助成金を贈った。新規事業はなく、いずれも継続事業だが、大半の団体の助成額を前年度より減額した。

あしなが育英会へ助成▽福岡、北九州、佐賀、大分の「いのちの電話」へ助成金▽「福岡盲ろう者友の会」活動費助成▽北九州ホームレス支援機構に助成▽山口県共同募金会▽福岡県交通遺児を支える会と同会北九州総支部▽九州盲導犬協会▽北九州あゆみの会▽北九州市障害福祉ボランティア協会▽山口県児童福祉連絡会議▽日タイ両国の社会福祉交流事業助成



写真は日タイ両国の社会福祉交流事業でタイに贈られた車いす。当事業団の助成で購入し、タイに持参した。